

用語 日本語：環境教育 英語：Environmental education

【定義】環境や環境問題に対する興味・関心を高め、必要な知識・技術・態度を獲得させるために行われる教育活動。

【説明】ユネスコ（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, UNESCO）の国際環境教育プログラムでは、1975年に環境教育の目的・目標を定めたベオグラード憲章を採択した。この中で環境教育の目的は「環境やそれにかかわる諸問題に気づき、関心をもつとともに、現在の問題の解決と新しい問題の未然防止に向けて、個人的、集団的に活動する上で必要な知識、技能、態度、意欲、実行力を身に付けた人々を世界中で育成すること」、その目標は「関心（気づき）、知識、態度、技能、評価能力および参加（関与）」であると述べている。日本では学校、政府や地方自治体、NPO、企業などが主体となって多岐にわたる活動がなされており、学会組織としては一般社団法人日本環境教育学会などがある。環境に関わるトピックは特定地域の問題から都市へ、さらに地球規模に拡大している。健康で快適な住まいにおいて持続可能な暮らしを実現するという観点から、室内環境に関わる環境教育も必要であり、室内空気質、エネルギー対策、リサイクルなどを題材とする教育プログラムの開発・実践が期待される。

【解説者】関根嘉香 所属：東海大学理学部化学科

用語 日本語：衣類用柔軟剤 英語：Fabric Softener

【定義】繊維に柔らかさや滑らかな肌触りを持たせるために衣類の洗濯時や繊維の製造・加工時に使用される薬剤のこと。

【説明】洗濯後の繊維に柔軟性を持たせるために添加される薬剤では、作用成分として主に陽イオン界面活性剤（四級アンモニウム塩等）が用いられる。柔軟成分である陽イオン界面活性剤が衣類に付着することによって、電気的反発作用が生じ、繊維間の摩擦が減少することによって滑らかさが生じる。水中で適切に機能を発揮させるため、あるいは陽イオン界面活性剤による吸水性低下などの負の作用を抑制するために、非イオン界面活性剤や溶剤、安定剤などが配合される。工業的に使用される柔軟剤には、界面活性剤のほか、ポリマー、シリコン、ワックス等を用いるものがあり、濃度や温度など使用条件も異なる場合がある。

2000年代以降は付随的な価値として様々な香りの付与、生乾き臭や汗臭の抑制機能の付与、持続性の向上などがなされており、マイクロカプセル化技術も導入されている。一方、国民生活センターの調査などによれば、柔軟剤香料等による健康被害を訴える声が増えているとされるが、因果関係が不明瞭であるため、国や自治体が周辺への配慮を求めるに留まっている。

【解説者】浦野真弥 所属：環境資源システム総合研究所